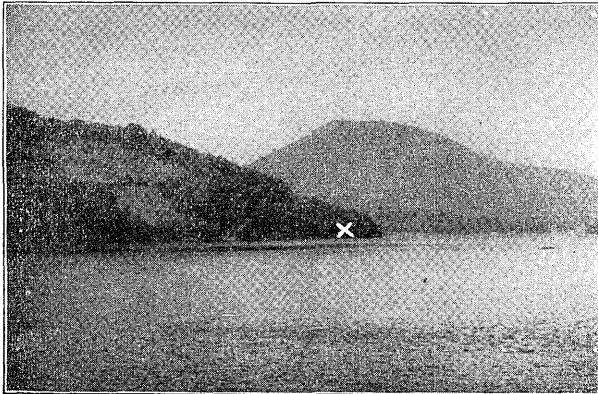
雜　錄　Miscellaneous

○野尻湖畔小記

昨夏八月初旬余ハ信州野尻湖畔、桐久保ニアル東京基督敎青年會所屬野尻學莊ノ客トナツタト云フトエラサウダガ、實ハ割込ンダノデアル。今日、野尻ト云ヘバ避暑客ノ樣ナ夏期有閑階級ノ出沒スル所ノ樣ニ考ヘラレ、且ツソンナ風ニ考ヘル事ガ、アナガチ認識不足ナ考ヘデハナイガ、ソノ高級ナ土地ヘ人足體ノ余ガ蠻族ノ標本ミタイナ風體デ乘リ込ンダノデアル。シラバツクレズ白狀スルガ云フ迄モナク目的ハ草木切取リ御免ト云フ所デアツタ。

信州野尻湖、×印ハ野尻ぼたいじゆ發見地點、正面ハ黑姫山

紳士、淑女諸君トハ別ニ、余ニハ野尻ハアコガレノ地デアル。サテ、其ノ謂ハレ因緣ト申スハ1903年ニ矢澤米三郎氏ガ、次イデ1904ニ今ノ東大理學部長柴田桂太博士ガ此處デひめみづにらヲ得ラレタノデ、實ニ其ノ type locality デアルカラデアル。然シテ其上今尙ソレガ水戸口カラ御廻リニカケテ存在スルノヲ散見出來ルカラデアル。マタ、本誌III卷8號p. 30ニ牧野博士ガ發表サレタ *Xanthoxylum piperitum* DC. var. *brevispinum* MAKINO (やまあさくらざんせう) ノ type locality デアルカラデアル。其外ニ、野尻近傍一帶ハあまちやノ一大栽培地デアルカラト云ツテ、あまちやデかつぼれヲ踊ラントスル風流心ガアツタノデハ無イガ其栽培ノ狀況ヲ見ルノモ無駄デハ無イラシイシ、更ニ實ヲ吐ケバ何カ面白イ化物ニ出會ハサヌトモ限ラナイカラデアツタ。サレバ、野尻著後ハ生來ノアマリヨクナイ眼瞼ヲ更ニ一層緊張サセ、不退轉ノ勇猛心ヲ起シ、一生懸命ニ此處彼處ト捜査シ、旅費ニ相當スル程ノ掘出シモノヲシタ、依テ其一二ヲ紹介シテ見ヨウ。

先ヅ化物ニ因緣深イ柳カラ申サウ。其一ハ木村有香氏ニヨレバ *Salix jessoensis* SEEMEN (しろやなぎ) ダラウトノ事デ、木村氏ハ「コレホド毛深クテ北海道ノしろやなぎラシイ柳ハ內地カラハハジメテデアリマス、少クトモ小生ニハハジメテデス」ト返信サレテ居ル。尤モ念ニハ念ヲ入レデアルカラ、目下其揷木ノ生育ヲ見守ツテ居ル。其二ハ *Salix tsugaluensis* KOIDZ. ノ由デアル、尤モ本品ハ余ノ採品ヲ木村君ガ檢定シタ結果武州登戸ニモアルコトモ判ツテ居ルガ、湖畔ノ宮澤臺ニモアル。其三ハ余ガ本誌II卷3號(1919) p. 50デしなのやなぎト假稱シタモノデ、當時余ハ之ヲ信州飯綱原デ採リ、其標本ハ當時木村氏ニ進上シ

テ手元ニ無イノデ、木村氏手元ノモノト比較シテ貰ツタラ全ク同一物デアルト判ツタ、然ルニ木村氏ノ通信中ニ「拜借中ノ古イ標本 (Iizunahara, Shinano 5,8-1918 しなのやなぎ) ヲ出シテヨク比較シタ結果全ク**シナノヤナギ**ニ相違ナイコトヲタシカメマシタ、所ガコレト同ジモノヲ小生 1934 年ニ磐城ノ白河町附近ニテ同一株ヨリ花ト葉ヲ採集シ尚ソノ株カラ枝ヲ切リ來ツテ仙臺ニテ栽培シ結局コレハ *Salix futura*×*integra* デアルト云フ結論ニ到著シ *Salix sirakawensis*, m. ナル名ヲ附シ發表ノ用意ヲシテ居タモノデス、今回ノ御注意デハジメテコレガ**しなのやなぎ**ソノモノデアルコトヲ知ツタト云フワケナノデアリマス、ソコデ發表ノ際ノ Type-specimen デスガ、コレハヤハリ小生ノ採集シタ方ヲ使用シタイト思ヒマスソレハ花ガアルカラデス、和名ハ無論**しなのやなぎ**トシタイト思ヒマス、サウスルト學名ノ *sirakawenis* ガチトヲカシイノデ何トカシナケレバナリマセンガ御名案ハアリマセンカトアルカラ、余ハしなのやなぎナル假名ハ元々假名ダカラ撤廢スルコトヲ玆ニ聲明スル、依テしなのやなぎナル假名ハ木村氏ガ Salix sirakawensis ヲ發表スルト同時ニ消滅スルモノトス。コレデ柳ノ化物退治ハ一段落トスル。

次ニハ御廻リ附近デかもめづるノ一種ヲ得タ、丁度、當時中井博士ガ此一群ヲ研究中デアツタノデ同博士ノ照魔鏡ニヨリ *Tylophora Franchati* Lev. (しろばなかもめづる) ダト看破サレタノハ氣味ヨカツタ。

其他ニハ大イシタモノモ見付カラナカツタガ桐久保ノ森林中ニハもみぢ類ガ一番種類ガ多ク、からこぎかへで、かぢかへで、こはうちはかへで、ひなうちはかへで等ヲ目睹シタ。マタ湖畔ノ沿壁ニハほつゞじガ樹間ニ點在シ、はしばみガ大事サウニ若イ堅果ヲ巾著狀ノ苞鱗ニ包ンデ居タシ、マタひめのがりやすガ將棋ノ駒ノ歩ノ樣ニ前線ニ散開シテ居タ。其他色々ナ雜木ヤ雜草ニ出會ツタガ、中デモ特ニ目立ツタノハ、龍宮ノ鼻カラ約 20 米バカリ學莊ノ方ニヨツタ所ニアツタ一種ノしなのきデアツタ、依ツテ、之ニ別項 (p. 211) ノ如ク「野尻ぼだいじゆ」ノ名稱ヲ與ヘ置イタ。一見しなのきダガ、葉裏面ガ白ク、且ツ星芒狀毛滿布シ、果實ガ大キク、多毛デ、基部五角狀ヲ呈シ、蕚片ニハ白星芒狀毛ガアル(しなのきデハ其毛ガ小サク一小點ニ見エル) ノデ附近ニアルおほばぼだいじゆノ性質ヲ示スガ、葉質、葉形並ニ若枝ニ毛ノ無イ點ナドガしなのきニモ似テ居ル。兎ニ角奇態ナ化物デアルカラしなのきトおほばぼだいじゆトノ自然間種ト認メル。自今此ノ化物ニ御用ノ方ハ野尻學莊ヘオ尋ネニナレバ判ル樣ニシテアル。　(久内清孝)

○支那ニ産スル地衣類ニ關スル文獻

從來支那ノ地衣類ハ歐洲カラ派遣サレタ宣敎師ヤ旅行者又ハ探檢隊員ガ採集シタ標品ガ Baroni, Crombie, Hue, Jatta, Krempelhuber, Müller, Olivier, Patouillard, Paulsen, Rabenhorst, Zahlbruckner 等ニヨツテ研究サレタダケデ、調査サレタ區域ハ廣イ支那ノ全土カラ見レバ實ニ問題ニナラナイ少部分デアツテ、未調査ノ區域ガマダマダ殘ツテヰル。殊ニ北支那カラ滿洲國ニカケテハ殆ンド全ク調査報告ガナカツタガ、最近ニナツテ朱彥丞 (Tchou Yen-Tch'eng) ガ「中國地衣之初步研究 Note préliminaire sur